

西部地区への病弱特別支援学校高等部設置について

特別支援教育課

西部地区における病弱児の教育環境の充実を図るため、病弱高等部を設置する。

1 設置の内容

- 設置場所
県立皆生養護学校
- 設置年度
平成26年4月1日（1学年から年次的に受入）
- 学級定員
肢体不自由の生徒と併せて1学級8人（鳥取養護学校と同様）
- 学級数
当面1学年1～2学級を想定（1学年5～12人程度）
- 必要施設
当面必要となる3教室の教室棟を、平成27年4月を目途に整備
（平成26年度は1学年のみであり、既存の教室を融通して対応）
- 医療連携
新たに必要となる精神科の学校医を配置（関係機関から内諾済）

2 今後のスケジュール

9月

- ・病弱高等部設置に係る生徒・保護者対象説明会
- ・皆生養護学校保護者説明会

10月

- ・学校管理規則一部改正

H26. 1月

- ・生徒募集に係る学校説明会

2月

- ・出願（21日～25日）

3月

- ・入学者募集に係る諸検査（6日）
- ・入学候補者発表（14日）

平成25年度一般会計補正予算説明資料

10款 教育費

05項 特殊学校費

特別支援教育課（内線：7574）

2目 特別支援学校費

（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
（新）西部病弱高等部整備事業費	0	15,778	15,778				15,778	知事査定中

工程表の政策目標（指標） 自立と社会参加の促進を目指した教育環境の整備

事業内容の説明

1 事業の概要

西部地区における病弱児の教育環境を充実するため、平成26年4月に皆生養護学校に病弱高等部を設置するために必要な教室棟増築に係る設計及び現校舎の改修等を行う。

<高等部の設置内容>

- 設置場所：県立皆生養護学校
- 設置年度：平成26年4月1日（1学年から年次的に受入）
- 学級定員：肢体不自由の生徒と併せて1学級8人（鳥取養護学校と同様）
- 学級数：当面1学年1～2学級を想定（1学年5～12人程度）
- 必要施設：当面必要となる3教室の教室棟を、平成27年4月を目途に整備（平成26年度は1学年のみであり、既存の教室を融通して対応）
- 医療連携：新たに必要となる精神科の学校医を配置（関係機関と調整中）

2 主な事業内容

<事業費 平成25年度から平成26年度の継続事業> （単位：千円）

区分	平成25年度	平成26年度	計
実施設計委託費	1,512	3,526	5,038
地質調査委託費	5,208		5,208
トイレ改修工事（1期）	4,774		4,774
工損事前調査委託費	4,284		4,284
計	15,778	3,526	19,304

【参考：全体スケジュール】

項目	金額（千円）※	平成25年度						平成26年度						平成27年度	
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7～10	11～2	3	4～7	8
地質調査	5,208														
実施設計	5,038														
本体工事	83,789														
工事監理	3,016														
家屋事前調査	4,284														
家屋事後調査	6,111														
トイレ改修（1期）	4,774														
トイレ改修（2期）	13,383														
計	125,603														

※本体工事費については、実施設計等の結果変更となる場合あり

3 これまでの取組状況、改善点

- (1) 「西部地区における病弱特別支援学校高等部の設置等に係る検討会」（座長：三木鳥取大学准教授）で検討（平成24年10月から3月まで5回開催）を行い、「西部地区病弱特別支援学校高等部を速やかに設置すべき」と最終報告がなされた。
- (2) 西部地区の病弱児童生徒は、現在米子市立米子養護学校に18名、町村に5名在籍している。これまでは中学部等卒業後、ほとんどの生徒が高等学校等へ進学しているが、心身症等の生徒が高等学校に通うことの難しさ等から高等部の設置が望まれていた。